

決算特別委員会 産業建設分科会 記録

開会年月日	平成 29 年 9 月 15 日
開会時刻	午前 9 時 59 分
閉会時刻	午前 11 時 04 分
出席委員名	◎上田修一 ○岡田善行 世古 明 山根隆司
	小山 敏 杉村定男 山本正一 佐之井久紀
	宿 典泰
	浜口和久 議長
欠席委員名	なし
署名者	世古 明 山根隆司
担当書記	森田晃司
審査案件	議案第 77 号 平成 28 年度決算認定について 産業建設分科会関係分
	議案第 79 号 平成 28 年度伊勢市水道事業の利益の処分及び平成 28 年度伊勢市水道事業会計決算認定について
	議案第 80 号 平成 28 年度伊勢市下水道事業の利益の処分及び平成 28 年度伊勢市下水道事業会計決算認定について
	議案第 81 号 平成 28 年度伊勢地域農業共済事務組合会計決算認定について
説明員	市長 副市長 ほか関係参与

審査の経過ならびに概要

上田会長が開議を宣告し、会議成立宣言の後、会議録署名者に世古委員、山根委員を指名。「議案第77号 平成28年度決算認定について」産業建設分科会関係分外3件を議題とし、特別会計から審査を再開し、付託案件すべての審査を終わり、暫時休憩の後、会長報告文について正副会長に一任することで決定し、閉会した。

開議 午前9時59分

◎上田修一会長

ただいまから決算特別委員会産業建設分科会の継続会議を開きます。

出席者は全員でありますので、会議は成立しております。

会議録署名者は、当初決定のとおり世古委員、山根委員の御兩名をお願いいたします。

住宅新築資金等貸付事業特別会計の審査に入ります。

266ページをお開きください。

歳入について、歳入一括で御審査願います。

御発言はありませんか。

☆住宅新築資金等貸付事業特別会計

【歳入】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、歳入の審査を終わります。

次に、268ページをお開きください。

歳出について、歳出一括で御審査願います。

御発言はありませんか。

【歳出】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、歳出の審査を終わります。

次に、270ページをお開きください。

住宅新築資金等貸付事業特別会計実質収支に関する調書について御審査願います。

御発言ありませんか。

【住宅新築資金等貸付事業特別会計実質収支に関する調書】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、住宅新築資金等貸付事業特別会計実質収支に関する調書の審査を終わります。

次に、観光交通対策特別会計の審査に入ります。

274ページをお開きください。

歳入について、歳入一括で御審査願います。

☆観光交通対策特別会計

【歳入】

◎上田修一会長

御発言はありませんか。

山根委員。

○山根隆司委員

駐車場の料金ということで伺います。

臨時駐車場と市営駐車場の格差というのは、毎回言われております。料金の改定について見直しということはもう何回も御答弁を、小山委員さんのときにもいただいていたのですが、それからの調整、見直し議論についてどこまで進んだのか、その点をお聞かせください。

◎上田修一会長

交通政策課長。

●小林交通政策課長

市営駐車場と臨時駐車場の格差の件でございますが、昨年11月の産業建設委員会におきましても御報告申し上げましたが、各関係者と調整をしてまいりましたが、今のところ、このままでいきたいということで御報告申し上げたところでございます。

◎上田修一会長

山根委員。

○山根隆司委員

当面、現状のままでいくというスタイルで変わりがないという御答弁でよかったんですか。

◎上田修一会長

交通政策課長。

●小林交通政策課長

そのとおりでございます。

○山根隆司委員

ありがとうございます。

◎上田修一会長

よろしいですか。

○山根隆司委員

はい。

◎上田修一会長

他に御発言はありませんか。

宿委員。

○宿 典泰委員

歳入だけですか。

◎上田修一会長

歳入だけです。

宿委員。

○宿 典泰委員

歳入だけということなので、少し私のほうも質問を変えたいと思うんですけども、事業収入として5億5,815万700円、繰り越し分が1億4,330万2,029円ということで、諸収入もあって7億765万ということですね。ここにも見せていただいて、平成26年から大体平均して駐車場収入というのが上げられておるわけでありましてけれども、割と安定したというのか、5億五千数百万で進んでいくのではないかなど。安定した収入で、この観光交通対策の特別会計としては、今のところ順調よく推移しておるのかなというような評価ができると思うんですけども、これに甘んじてという話にならないと思うんですけども、このあたりの収入について、これからの予想としてはどのような予想をされておるのか、お聞かせを願いたいと思います。

◎上田修一会長

交通政策課長。

●小林交通政策課長

今後の収入の見通しでございますが、遷宮から平成28年度まで、おおむねよく似た数字で推移しておりました。ただ、サミット効果もあり、昨年もかなりの収入があったわけですが、今後、どのように推移していくかということにはちょっとわからないところがありますが、昨年度は5億5,800万円の収入があったわけですが、大体5億程度はある

ものと考えております。

以上でございます。

◎上田修一会長

いいですか。

○宿 典泰委員

いいですかって、もうできへんがな。

◎上田修一会長

はい。

○宿 典泰委員

歳入、歳出一括でしてもらわんと議論はできませんわな、特別会計のところ
どうぞ。

◎上田修一会長

他に御発言はないですか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎上田修一会長

御発言もないようですので、歳入の審査を終わります。

次に、276ページをお開きください。

歳出について、歳出一括で御審査願います。

【歳出】

◎上田修一会長

御発言はありませんか。

山根委員。

○山根隆司委員

この中で負担金、補助及び交付金でございます。

予算額7,320万2,000円となっているわけでございます。実際不用額として3,667万8,000円と約50%、半分で終わっておるわけです。この不用額が半額になったということはありがたいかわかりませんが、どういう理由で50%の予算からなったのか、その点はちょっとお聞かせください。

◎上田修一会長

交通政策課長。

●小林交通政策課長

この負担金につきましては、伊勢地域観光交通対策協議会に負担しておるものでございます。この差につきましては、まず、収入面におきまして、駐車台数が想定以上にふえました。また、歳出におきましては、菓子博の駐車場対策としまして不測の事態に備えまして約2,500万円ほど盛っております、その他もろもろ合わせまして3,667万8,000円という結果になりまして、当初、見込んでおった数字より半分程度になったものでございます。

◎上田修一会長

山根委員。

○山根隆司委員

菓子博があったということで、2,500万円の上乗せがあったというのが主な要因ということは、もうわかりましたので結構でございます。

◎上田修一会長

他に。

宿委員。

○宿 典泰委員

私も先ほどの収入と比較をして、今回、昨年から見ると3億4,200万円ということで、3,000万ほど全体の経費としては少なくなっておるわけでありましてけれども、こういった事態というのが、私は想定以上に経費を使わなかったわけでありまして、収支の差がこれぐらい出るというのは、もうありがたい話だなと思うわけでありまして。今後の見通しとしては、大きな菓子博であったりとか、神宮さんの大きな行事がない以上は、先ほど歳入のほうでも確かめましたけれども、5億程度の収入が維持できるだろうという予想を立てておることになると、この歳出のほうも、実はもう少し行財政改革の視点というのか、もう少しいろいろなところの見直しをして、歳出削減を図っていかないと、また、これ逆転現象が起こってくる可能性が出てくるのではないかなということ、非常に危惧をします。

今回はおかげさんでということで非常に収益も上がって、収支差が出ておりますけれども、このあたりの今後について、削減についての考え方をお示しいただきたいと思っております。

◎上田修一会長

交通政策課長。

●小林交通政策課長

管理経費につきましては、おおむねこのままの推移になろうかと思っております。ただ、今後パークアンドバスライドの臨時駐車場の用地も少なくなっておりまして、そこら辺の拡大

も考えておるところでございます。

また、今後、更新もかかってまいろうかと思っておりますので、必ずしも下がるものではないかなとは思っておるところでございます。

◎上田修一会長
宿委員。

○宿 典泰委員

そのあたりは渋滞対策として、この観光交通の特別会計があるわけでありますから、このあたりが余り変えられないということになると、渋滞対策そのものがやはり課題があるのかなというようなことになりかねないので、やはりこの渋滞対策をするためにこういう特別会計も設けながらやっておる収支でありますから、削減できる部分も当然出てくるのではないかなと、こんなことを思いますし、別の案として、今後、5億円の収入に対して、歳出としてはどれぐらいまで絞り込みができるのかというようなことも検討の課題になるうと思うんですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

◎上田修一会長
交通政策課長。

●小林交通政策課長

今後につきましては、削減できるところは削減したいと考えております。
以上でございます。

◎上田修一会長
宿委員。

○宿 典泰委員

削減できるところはということなんですけれども、やはり今のルートであったりとか、ファインの問題であったりとか、課題であったりとか、そういったことについて、やはり見直すべきところが随分あるように思うんですね。何か観光交通に対しての先ほど山根委員さんも言われた7,300万盛って、そのうちの2,500万は不測の事態やというものの、そのあたりのルートであったりとか、警備員の問題であったりというところを見直すことによって随分私は削減ができる部分があるのではないかなと。何かそこへ持っていく費用が固定されたもののような答弁をいただきましたけれども、そうではないと思っておりますので、きちっと見直しを考えていただきたいと思うんですけれども、もう一度お答えください。

◎上田修一会長
都市整備部長。

●堀都市整備部長

委員の御指摘、対応させていただきたいと思います。今、管理費につきましても、固定的なものと言いましたけれども、やっぱり見直しというものは常に行っていないかんとやと思いますし、警備員を今、何人配置しておって、それがやっぱり有効に対応しているのかどうか、そのあたりも十分見ながら、減らせるものは減らしながら、また、先ほど申しましたように、サンアリーナ周辺の臨時駐車場の部分というのがなかなか減ってきておるといふふうなところもございますので、そのあたりの部分の容量はやっぱり確保していかないかんとというような課題もございますので、そのあたりを十分見ながら対応してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

わかりました。努力していただきたいと思います。

もう一点、基金積み立てが2億1,000万からあるということです。順調よくという話で仮定して申しわけないんですけれども、毎年積み立てが出るということになったときには、この積立金の活用方法というのほどのようにやっていくのかということをお聞かせ願ひたいと思います。

◎上田修一会長

交通政策課長。

●小林交通政策課長

基金積み立てについてでございます。

現在2億1,000万ほど積み立てがございます。これにつきましては、駐車場の設備がおおむね10年程度で更新を迎えてまいります。また、9年後の平成38年には御木曳行事であったり、16年後にはまた遷宮も迎えることになろうかと思ひます。このため、渋滞対策の整備のために、駐車場の拡大であったり、道路整備も必要になってこようかと思ひます。また、さらにはパークアンドバスライドの増設も考えていかなあかんと思われますので、そのために積み立てをしているものでございます。

以上でございます。

◎上田修一会長

よろしいですか。

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上田修一会長

他にないようですので、歳出の審査を終わります。

次に、278ページをお開きください。

観光交通対策特別会計実質収支に関する調書について御審査願います。

【観光交通対策特別会計実質収支に関する調書】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、観光交通対策特別会計実質収支に関する調書の審査を終わります。

次に、土地取得特別会計の審査に入ります。

282ページをお開きください。

歳入について、歳入一括で御審査願います。

御発言はありませんか。

☆土地取得特別会計

【歳入】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、歳入の審査を終わります。

次に、284ページをお開きください。

歳出について、歳出一括で御審査願います。

御発言はありませんか。

【歳出】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、歳出の審査を終わります。

次に、286ページをお開きください。

土地取得特別会計実質収支に関する調書について御審査願います。

御発言はありませんか。

【土地取得特別会計実質収支に関する調書】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、土地取得特別会計実質収支に関する調書の審査を終わります。

以上で議案第77号の審査は終わります。

次に、特別会計中、当分科会の関係分の自由討議を行いたいと思いますが、御発言はありませんか。

【特別会計の自由討議】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、自由討議を終わります。

次に、「議案第79号 平成28年度伊勢市水道事業の利益の処分及び平成28年度伊勢市水道事業会計決算認定について」の審査に入ります。

この議案の審査については、一括で御審査願います。

☆議案第79号 平成28年度伊勢市水道事業の利益の処分及び平成28年度伊勢市水道事業会計決算認定について

◎上田修一会長

御発言はありませんか。

山根委員。

○山根隆司委員

水道料金についてちょっとお尋ねいたします。

この1年、決算ということがございます。水道料金の滞納者に対する対応ということがございます。今年度、給水停止の予告とかされた件数とか、現実には何件ぐらいあったんですか。

◎上田修一会長

料金課長。

●酒井料金課長

ただいまの御質問にお答えいたします。

平成28年度中に停水、まず、予告を行った件数でございますけれども2,243件、そのうち強制停水に至ったものが、延べで349件でございます。平成29年3月末現在で停水中だったものが41件でございます。

以上でございます。

◎上田修一会長

山根委員。

○山根隆司委員

給水停止の予告でも2,000件以上の件数が市内でもあるわけがございます。給水停止に至っては349件ですか、かなりの方が水道料金の未納か、延滞、おくられているという現状だと思います。やはりこのところでしっかり料金徴収に対しましてもうちょっと意識改革をしてもらわないと、今後これが決算の状態になっていくのかなというような感覚を持

つわけでございます。命を守る水でございますが、給水停止をするまで、そこに行くまでもやはり料金の徴収ということをもう少し考えるべき点があるかのように思います。その点について、今後の展開としてどこまで考えておるのか、ひとつお願いいたします。

◎上田修一会長
料金課長。

●酒井料金課長

まず、やはり現年度回収というところには強化を置いておるところでございまして、昨年度から上下水道部の次長を座長としまして、収納対策会議を月1回開催いたしまして、徴収業務委託を行っております業者を交えて、回収強化について話し合いの場を持っておるところでございます。平成27年度と平成28年度を比較いたしましても、わずかではございますけれども、未収額も減少しておるところでございまして、引き続き、委託業者も含めまして、早期対応で取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

◎上田修一会長
山根委員。

○山根隆司委員

わかりました。早期対応ということでございます。不納決算が出ないように極力頑張ってください。

以上で、結構でございます。

◎上田修一会長
よろしいですか。

○山根隆司委員
結構です。

◎上田修一会長
佐之井委員。

○佐之井久紀委員

1点有収率の件について、ちょっとお尋ねをしたいと思います。

事業報告を見ますと、給水戸数が5万6,229戸、前年度より140戸の増加を見ております。しかし、有収水量、これが0.02%減ってきている。

そこで、有収率が事業報告書によりますと、89.5%ということに御報告を受けております。これは簡易水道も入れての平均値ですか。そういうことだと思っておりますが、有収率が

0.5ポイント減ってきている。この89.5%といいますと、私もほかの市をちょっと調べたことがあるんですが、かなり他市と比べて成績はいいと思います。いいんですが、何しろ89.5%といいますと、約1割強、10.5%が無駄な水、わかりやすく言いますと、水が無駄になったということでございますので、そこで、まず1点、有収率の経年推移というんですか、三、四年前からで結構ですので、ちょっとお答えをいただきたいと思います。

◎上田修一会長
上水道課長。

●田端上水道課長

平成24年度からの有収率をお答えします。平成24年度としては88.2%、平成25年が同じく88.2%、平成26年が88.4%、平成27年が90.0%、平成28年が89.5%でございます。

◎上田修一会長
佐之井委員。

○佐之井久紀委員

どうもありがとうございます。去年よりはちょっと約0.5%減ということでございます。無駄水というんですか、いわゆる有収率を上げるというのは基本的なことでございますので、そういう漏水調査ですね。無駄になっていっておる原因を突きとめる漏水調査が必要になるわけでございますが、漏水調査の費用を、決算書を見ますと、主要明細で読みますと2,570万強支出をされておりまして、金額的にはかなり大きいわけでございますが、その漏水の起きた原因というんですか、要因はどういうところが主なのか、ちょっとお答えをいただきたいと思います。例えば、これは給水管が古くなっておる、老朽化しておるといものなのか、あるいは道路工事によって損傷が発生したというものなのか、また、第三者による起因なのか、そこら辺はどういうふうに分析をされていますか。

◎上田修一会長
上水道課長。

●田端上水道課長

特に、去年、おととしに比べまして0.5%下がったという原因としては、主な原因として配水管からの漏水を考えております。具体的には、通町地内の用悪水路敷に布設した100ミリの配水管の漏水でございますけれども、その漏水が11月ごろから1月ごろまであったと。推定漏水量としては、時間44トン、1日にしますと1,056トン、3カ月のトータルにしますと、9万7,000トンが漏れていたと、これが主な原因だと考えております。

◎上田修一会長
佐之井委員。

○佐之井久紀委員

明確に答えていただきましてありがとうございます。よくわかりました。

それで、この有収率というのは、この公営企業の基本中の基本的なことから、やっぱりそういうきちっとした漏水の調査の分析もして、検証もされているわけですが、そういう有収率の向上対策というのは打っておると思うんですが、そこら辺をお答えいただきたいと思います。

◎上田修一会長

上水道課長。

●田端上水道課長

主には漏水調査を毎年していくということと、あと漏水があった場合の早急な修繕、それからパトロールとか、そういうものによって、いち早く漏水を発見して、それを早く修繕していく。それから、あわせて漏水管の修繕を計画的にやっていくと考えております。

◎上田修一会長

佐之井委員。

○佐之井久紀委員

どうもありがとうございます。

ひとつ水道経営ということで一番大事なことでするので、さらに努力をしてください。ありがとうございました。

◎上田修一会長

他にございませんか。

宿委員。

○宿 典泰委員

私も今、議論がありました有収率のことをお聞きしようと思っていました。ただ、今回の事態というのが、正直、漏水箇所の調査が3カ月近く、何か遅延したような状況だとは思いますが、こういう状況というのはどこでも起こり得る話でありますけれども、ただ単にこの漏水の調査というような一般家庭向けのことではないような気がするんですけれども、どのような形で今後、こういう大きな問題について対処していくつもりなのか、お答えください。

◎上田修一会長

上水道課長。

●田端上水道課長

漏水調査といいますのは、本管の漏水とかそういうものを大体半年近くかけまして、具体的には冬の夜間ですけれども、管のところに棒というのを当てまして、音聴調査というのを具体的にはやっていきます。それが一番道路内の漏水を見つけるのが効果的であると、それはしっかり毎年やっていかないかなと思っております。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

そのあたりは地域を決めて何かやられておることも確認はしておりますので、もう少ししっかりやっていただかないと、こういう決算ですぐ有収率の問題とか、せつかくきれいな水を安心・安全に送っていただいても今のような状況になるので、そのあたりで確認をもう一度していただきたいと思います。

次の問題にちょっと触れさせていただきたいんですけれども、いつも上水道の管が伊勢市全体でどれほどあるんやということで、900キロからあるということはお聞きをするわけでありましてけれども、今回お聞きをしたら、932.8キロやということをお聞きしました。ところが、やっぱり決算内のこの資料の中にこういったことが明示をされておられません。何かしら全体がわからずに、部分的な更新をやられたというようなところに集中をして、全体の中のこんなんやというような話をされるんですけれども、そのあたり我々に報告をしていただく、または監査委員さんに提出をしていただくその報告についても一考願いたいと思うんですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

◎上田修一会長

上下水道総務課長。

●成川上下水道総務課長

今、御指摘いただきました管延長等の指標、これは今まで決算書に記載はなかったわけでありましてけれども、今後につきましては、決算書の中の附属資料の部分で記載をしていくようにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

わかりました。そのようにやっていただきたいと思っております。全体が932.8キロで、老朽管がどれほどあるのかとか、耐震をする必要があるものがどれぐらいキロ数があつて、その耐震をどれぐらい済んだんだというようなことが、きちっと一目でわかるような状況をつくっていただきたいなとこんなことを思うんです。

それで、この議論の中でいつも言われておるのが、そうなると伊勢市全体のエリアをカバーするのはどれぐらいになってくるんやということで、90年近くかかるんやということもお聞きをしました。ところが、やっぱり老朽管の更新事業としてやられておるのが、大体今回も9.63キロということですね。ことしは老朽管の更新がそれぐらい行われました。ところが40年経過をしてということになると、これは毎年10キロ程度出るということもお聞きをすると、追いつきませんよね。10キロの更新をやっていくんだけれども、40年の経過をしてきたものが毎年10キロ程度出てくるということになると、90年というのはちょっと課題かなというようなこともあるんですけども、このあたりのことが、水として安全・安心にということに使われるのであれば、私はこの40年にこだわるつもりはないんです。一方、やはり他の市でも使い方がどうかとしても、その経過年数を40年じゃなくて60年ということ、行政側からもちよっとお聞きをしたことがあるので、そのあたりのことは、どのように我々としては、40年なのか、60年ぐらいまで使えるもので、60年の中でその更新を決めていくところがあるんやというようなことで考えるべきなのか、ちょっとそのあたりを教えていただきたいと思います。

◎上田修一会長

上水道課副参事。

●濱口上水道課副参事

今、仰せのとおり、去年の更新率からいきますと、約90年ぐらいの全体の更新となっております。今、耐震化管路更新計画というものを作成しておりますし、また、来年度ビジョンというものにつなげていきます。どうかこの1%から1.5%まで上げて、60年程度で更新を行いたいと思っております。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

わかりました。材料的にはもう60年でも大丈夫だということも、若干お聞きをすると、できるだけ安全性ということが担保されるということが必須ですけれども、お願いをしたいと思います。

その中で、若干聞きたいのが、これから震災等々のことがあると、やはり耐震化の問題というのが大きくて、我々、産業建設委員会の中でも、他市のほうへ行くと、やはり耐震化に向けたとか、万一その管が壊れたときの状況のこともしておるんですけども、そのあたりのことについて、耐震化集中というわけにはいかんとは思うんですけども、100ミリ以上のものを耐震化していくということで一旦お聞きをしたんですけども、そのあたりのこれも口径からいくと相当年数がかかるように思うんですけども、どれぐらいかかるんでしょうかね、この100ファイ以上の延長も含めてやと。

◎上田修一会長

上水道課副参事。

●濱口上水道課副参事

委員仰せのとおり、100ミリ以上の管は、現在、耐震管で施工はさせていただいています。全てを耐震化というと、その小さいものはできないんですけれども、やはり60年で全て更新していきたいということで今やっております。

○宿 典泰委員

どれぐらいかかりますか。

◎上田修一会長

どれぐらいかかりますか。

●濱口上水道課副参事

60年。

◎上田修一会長

上下水道部次長。

●前村上下水道部次長

現在、回答で60年と説明させていただいておりますのは、とりあえずそのあたりが目標というところではあるんですけれども、現在、管路の老朽化した部分と必要な耐震管の部分の計画を合わせて、一つの計画を策定中ございまして、管の種類によって現状布設されているものについては、40年で布設がえすべきものもございまして、管種によっては80年、100年近くもつものもあるということでございまして、恐らく推定で平均60年あたりに落ちつくのではないかとこのところではあります。ですので、60年で全管路を布設がえしていこうと思えば、年間1.6%の更新率というところを目標にしていきたいというのが現在のスタンスということで御理解をお願いします。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

わかりました。

次の質問に移りたいと思うんですけれども、繰越額というのが出ておりました。平成28年度決算の中でも、この予算現額が17億6,300万円強、繰り越しが7億6,000万円云々ということで、最終的な決算では、13億1,498万円ということになっておるんですけれども、結局この部分の繰越額というのが7億6,841万円、昨年からの予算での繰り越しが5億

8,200万円ということで、実際には、この全体の決算の中の3分の1以上は繰り越しというような、混ざったような感じなんですね。

私は年度、年度の4月1日から3月31日を、それをきっちり守れというような言い方をしているわけではありません。以前、水道業者の方からも、やはり1年通じて発注があるとか、1年通じて仕事があるということについては、非常にそれは大事なことだとは思っています。何か立て込んで、3月の近くになってくると工事がいっぱい出るよということではないような状況だとは思いますが、何せ平成27年度の繰り越しが5億8,200万円に対して、今回が7億6,800万円ということですから、この予想をしていくと、平成29年度はもっと繰り越しの額がふえるのかなというようなことになってくると、どのように、これは我々としては捉えていったらいいのか。繰り越しということですから、完成できていないということにも当然なるわけですから、このあたりはどのような解釈をされておるのか、ちょっとお聞きをしたいと思います。

◎上田修一会長

上水道課副参事。

●濱口上水道課副参事

すみません、水道工事という特性から、水道も専用者になります。当然、道路管理者工事であったりとか、他工事に伴う移設というのがおおむね、うちの工事の中に7割程度あります。最初に入らせていただいて、そちらの工事が終わって、うちが最後に入るというスケジュールがおおむねほとんどになります。すると、ついていく、その伴う工事の進捗もしくは繰り越しによって、うちも同じように繰り越しが来るのが現状でございます。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

技術的なことというのか、工事の進捗によって随分隙間が出るので、繰り越しは仕方がないというような状況だとは思いますが、何かそのあたりの、もう少し繰越額が明確になるような状況にはならんのかなと。その言われ方をすると、我々もちょっと反論のしようがないんですけども、あちこち工事をやっておるけれども、他工事にやはり引っ張られるということもあって、その地域のエンドに水道を持ってくるので、どうしても延びてしまうということになってくると、それはもうどこでもある話だとは思いますが、やはりこの繰越額を軽減する策というの、もう少し考えるべきではないかなと思っておりますけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

◎上田修一会長

上下水道副参事。

●濱口上水道課副参事

そうですね、仰せのとおり、当然主たる工事のほうとの調整もさせていただいて、なるべく年度内に終わるように努力はしてまいりたいと思います。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

やはり繰越額が30%を超えるなんていうことは、ちょっと全体的のボリュームから見ると異常なことだと思いますので、確認をちょっとさせていただきました。

これはやはり責任のある方にお答えを願いたいんですけども、経営基盤の強化ということが非常にこの中にも出てきます。これから人口減少になる、そしてまた少子高齢化やということになってくると、当然、水を使うということが少なくなってくる。管としては、もう安全・安心の中で配管を全部していくわけでありましてけれども、一方収益としては減っていくだろうということは、誰にもわかる話だとは思うんですね。

その中で、この資料を見させてもらおうと、今後の対応としては経営基盤の強化ということが出てきますけれども、これは何を指して言われておるのか、ちょっと御説明願いたいと思います。

◎上田修一会長

上下水道部長。

●中村上下水道部長

私どもの水道事業の経営でございますけれども、御指摘のように人口減少を初めといたしまして、経常収益が合併以降減少傾向にございます。その中で、先ほどから御指摘のありましたような老朽化の更新、耐震化、これは全国的な水道事業者の課題でもございますし、当市にとってもそれが最も大きな課題だと思っております。今後、そのことを事業の柱に進めていくことには変わりがないと思っております。

先ほど来、申し上げておりますように、来年度末を目途に、新しい基本計画、水道事業ビジョン、経営戦略でございますけれども、これをまとめてまいります。その中で、今後の財政負担、収益の状況、そういったものを見きわめて、今後の事業の展開の仕方をお示ししていきたい、そのように考えておりますので、御理解をお願いしたいと思っております。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

わかりました。今後、水道ビジョンが策定をされるということで、戦略という字が国交

省からも出てきたということで、僕は若干驚いておるんですね。安定供給ということをやっておるところについて、水道事業ビジョンの経営戦略というものができて、これに向けて、今、部長からお話をいただいたようなことになっていくんだらうと思いますけれども、全体のボリュームから見ると、収入は減っていく、配管の維持等々は行っていく、国・県からの補助的な事業というものがもうほとんどなくなっていくということになると、自前でやっていくということになってこようと思うんですね。そのあたりの財政的な基盤というのは、これは一般会計からお願いするということしかないような気がしてきます。そのことについても若干私は異論があるんですけれども、独立採算制ということ堅持していただくということになると、やはり部内の行財政改革という目線の中で、いろいろなもの見直しをやっていただくということも必要になってくるかもわかりません。今回も時間外労働の関係で、若干数字が膨れておりますけれども、それをあえて聞くような話じゃなくて、全体の話として、やはり行財政改革ということの視点も置きながら、今後、将来に向けてのビジョンづくりをやっていくということにならうかと思っておりますけれども、もう一度そのあたりをお答えいただけませんかでしょうか。

◎上田修一会長

上下水道部長。

●中村上下水道部長

これからの収益の対策、あるいは支出のあり方ということにならうかと思っております。これにつきましては、当然ながら現在までは独立採算の形で進めさせていただいてきております。我々としましても、現在組んでおります財政収支計画の中では、10年後にはおよそ約10億円程度の内部留保を確保したいな、それは収益の半年分ぐらい、何か非常時の事態が起きたときにでも、半年分ぐらいは収益が入らない状態でも運営ができるであろうというふうな状態を維持していきたいということから、そういう設定をいたしました。将来にわたって収益が減少していくという傾向には恐らく変わらないであろうと思っておりますけれども、その中でどういうふうに財源確保をしていくか、そのところもしっかり考えながら、来年度のまずはビジョンづくりの中でどこまでできるかということも含めて考えてまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

◎上田修一会長

いいですか。

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上田修一会長

他にないので、議案第79号の審査を終わります。

次に、「議案第80号 平成28年度伊勢市下水道事業の利益の処分及び平成28年度伊勢市下水道事業会計決算認定について」の審査に入ります。

この議案の審査についても一括で御審査願います。

☆議案第80号 平成28年度伊勢市下水道事業の利益の処分及び平成28年度伊勢市下水道事業会計決算認定について

◎上田修一会長

御発言はありませんか。
山根委員。

○山根隆司委員

下水道の整備はほぼ計画通りに進捗しているということで書かれております。その中で普及率は50.9%に達しているということでございます。下水道の引き込み、本当に各個人の接続で、これ問題がある中でございます。昨年も御答弁いただきましたが、これに対しまして、戸別訪問してやっておると、引き込み率のアップのために。この1年間、どこまでの戸別訪問、何件ぐらい実際はなされたのか、その点をお聞かせください。

◎上田修一会長

下水道施設管理課長。

●渡邊下水道施設管理課長

戸別訪問なんですけど、平成23年度から一応始めさせていただいて、約5,000件の方に戸別訪問させていただいて、接続率を伸ばしていくことを考えております。今年度につきましては、特に効果のある1年目から5年目の方に集中的に戸別訪問をしてお願いをしていく予定にしておりますので、よろしくお願いたします。

◎上田修一会長

山根委員。

○山根隆司委員

平成23年からで5,000件のところを訪問されたんですかね。訪問された中で、結果として、当局の方が汗かいてやってもうたんですけれども、その中の接続率というのはどれぐらいあったんですか、訪問されてから。

◎上田修一会長

下水道施設管理課長。

●渡邊下水道施設管理課長

全体の中の約4割ぐらいは、やはり戸別訪問させていただいて、接続していただいております。うちのほうは、申請をしていただく書類の中に、戸別訪問した職員の名前というのを上げさせていただいて、どんな形で、どんな方法で接続していただいたかという状況

がわかるようにさせていただく中で、約4割の方が戸別訪問によって接続をしていただいている、そういう状況だと認識しております。

◎上田修一会長
山根委員。

○山根隆司委員

戸別訪問で4割、かなり結果を残してきたんだと思います。まだ50.9%でございます、普及率にしましても。せやけど、本当に接続に関しまして、本当に多額の費用が要るうち、いろんな方、ひとり身の世帯で、家族数考えた中で、引き込むのが非常に難しい家も5割ぐらいはあるのかなという感覚を持っておるわけなんでございます。早期接続に対しまして、確かに問題、課題と言いましても、要はお金に関することだと思います、これに関しては。やはりそういう中で、平米508円とその中の最初の、いろんなことがありますけれども、課題と問題なく来れておりますが、また、引き続き戸別訪問のほうで4割の実績を上げたんだったら、これが6割になるのか、7割になるのか、年度を追って普及率もアップするように、ひとつ頑張ってください。ありがとうございます。

◎上田修一会長
大丈夫ですか。

○山根隆司委員
はい。

◎上田修一会長
他にございませんか。
宿委員。

○宿 典泰委員

御質問させていただきます。

今回、決算の中で見せていただいておりますけれども、実は、これは分科会等々ではございませんけれども、議会のほうも総連合自治会さんとの協議等々を行わせていただいて、意見交換をさせていただきました。その際に、自治会のメンバーの方、数人から、やはり伊勢市民の将来に向けての下水道の改良、普及をする場所が全然伝わってこないということをお聞きしました。私はこの質問に立つまでに、下水道建設課のほうから、平成32年までに大体どのあたりの町に配置されるんやということで、工事が入るんやということですよ。それをお聞きしたんですけれども、こういったことが市民の方の将来の設計と、建築も含めてそういう設計ができないということか、いつになったら来るんやろうと。ある人は、いや、もうその地域は来やへんと言っておるような人もおれば、いやいや、それは計画あるんやで、来るんやろうというようなことであったりとか、建物の位

置等々のことも含めて配置の問題も出てくる話ですから、来ないということであれば、三次処理の合併槽を取りつけてやるということになると思うんですけども。

それと、やはり先ほどからの人口がだんだん減っていくという中で、何十年も含めて、この下水道事業をやるわけでありましてけれども、そのあたりのことについて、まずは市民対応として、どのように情報公開をしていくのか、ちょっとその点お聞かせを願いたいと思います。

◎上田修一会長

下水道建設課長。

●松田下水道建設課長

ただいまの御質問にお答えします。

まず、住民の皆様への周知方法でございますけれども、毎年5月の広報には、その年度の予定箇所というものを載せさせていただきまして、各戸に配布させていただいておるところでございます。

一応、下水道の事業計画としては、5年毎に大体決まるんですけども、それをホームページにも載せていただきまして、あとパンフレットも作成しまして、PRに努めているところでございます。

以上でございます。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

今の対応では、やはり市民の方が、知りようがないという部分があると思いますよね。それはやはり、私がいただいた資料も平成32年にはありますけれども、やはり下水道を、これ今50.9%ということで非常に努力はしていただきましたけれども、当然これは100%行くつもりで今やられているとは思いますが。聞きますと、やっぱり平成47年ぐらいまでかかるんでしょうかね。そういうことになったとしても、やはりその間の住民の方への広報というのか、お知らせは、5年ないし7年ぐらい先にはこういう状況になる予定ですよ。当然それは国の予算、県の予算もあってやることなので、試算でどうのこうの言うてるつもりはないんです。でも、聞くのはそういう聞き方を皆さん、市民はしますから、俺のところはいつ来るんやというような言い方をしたときには、今のような大体決まったところだけは広報するというのではなくて、先読みをして5年ないし7年ぐらいの先で、皆さんにお伝えするようなことができないかと思うんですけども、そのあたりはいかがでしょうかね。

◎上田修一会長

下水道建設課長。

●松田下水道建設課長

委員御指摘のとおり、市民の皆様へのPRというのは非常に大事な部分だと感じております。確かに来年ぐらいですと先が読めるんですけども、2年、3年となると、次の場所というのがなかなか難しい部分もございます。ですけども、なるべくできる形で、できる限りはございますけれども、PRには努めていきたいと考えております。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

そのあたりは、きちっと市民に対して御協力をいただくという最終的にはなるわけありますから、PRというよりも、広報等々でできたところ、できないところの更新をやっていけばいいので、ぜひお願いをしたいと思います。

先ほどから普及率50.9%ということで、水洗化率も80.4%ということでもありますけれども、これ80.4%というのは、この下水道の計画上、大体思惑どおりというのか、予定どおり行っておるのか、そのあたりのちょっと評価をお聞かせ願いたいんですけど。

◎上田修一会長

下水道施設管理課長。

●渡邊下水道施設管理課長

お答えさせていただきます。

経営戦略というか、財政計画をさせていただく中で、ほぼ同じペースで進んでいるかなと判断しております。

以上でございます。

◎上田修一会長

再度、宿委員。

○宿 典泰委員

ごめんなさい。水洗化率の平成28年度末の計画値は幾つでしたでしょうか。80.5%ですか。どんな話なんですか。

◎上田修一会長

下水道施設管理課長。

●渡邊下水道施設管理課長

81.6%やったと思います。

すみません、81%でございます。申しわけございません。

◎上田修一会長
宿委員。

○宿 典泰委員

目標に近い数字だということで、このあたりの水洗化率があるかないかということで、これは収益全然違うと思うので、0.6%ということでありますけれども、このあたりのことについてはどのように考えておるか、ちょっとお聞かせをください。

◎上田修一会長
下水道施設管理課長。

●渡邊下水道施設管理課長

できれば水洗化率向上は非常に大事なと、経営していく上では水洗化率を上げていくことが大事なとっております。先ほど山根委員からも御紹介いただきましたように戸別訪問であったり、それから、流れとしては、工事説明会、それから供用説明会、そして戸別訪問という形で、できる限り水洗化率を伸ばしていきたいという思いをしておりますので、経営の基本的なスタンスは別として、少しでも上げられるように努力していきたい、そんな思いをしております。

最新のデータでまだ非公開ではございますけれども、8月末で一応81.7%というのが今の現状でございますので、よろしくお願ひしたいなと思ひます。

◎上田修一会長
よろしいですか。
宿委員。

○宿 典泰委員

わかりました。よろしくお願ひをしたいと思います。

資料の中から、汚水の固定資産の残高といひますか、下水道が始まって643億6,300万かかっておるといひことをお聞きしました。当然これは、毎年減価償却も含めてやられております。これが大体50.9%ということですから、単純に倍といひわけにはいきませんけれども、大体伊勢の下水道を完備するのに1,280億円ぐらひかかるということになるかと思ひます。今の643億6,300万を、今の6万5,356人といひ流域内の人口で割りますと98万5,000円、大体お一人あたり98万5,000円の投資をしておるといひことになります。その一方で、収支といひことになるわけでありますけれども、大体水道料金と同額かなといひような状況かと思ひますけれども、収入としてはどれぐらひになるんでしよるか、1人あたり。

◎上田修一会長

どなたですか。

上下水道総務課長。

●成川上下水道総務課長

1人当たりのこれまでの負担していただいた金額というのは、正直、今ちょっと数字を持ち合わせておりません。平均的に幾ら1人当たりが負担していただいているかということになりますと、1カ月20立米使用していただいたとしますと、税抜きですけれども2,300円負担いただいているという状況でございます。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

そうでしょうね。2,300円が月額ということですから、1年間にしれた金額だとは思いますが。その一方で、やはりこれぐらいの投資をしていくということになるわけでありますから、私が言いたいのは、先ほどの水道と同じように、これも人口ビジョンとしては、あと18年後ということになりますから、平成47年ぐらいには9万9,000人、もう10万人を切るんだというような人口ビジョンが示されていますよね。若干違ったらお聞かせを願いたいんですけども、そういう中で、投資はどんどん上がっていく。人口はどんどん減っていくということになって、当然お支払いをしていただく人口も減るわけであります。それは今以上に、負担からすると倍ぐらいの感じで負担をしていくというふうなことになるわけであります。

一方、やはり平成28年に317億からの起債、借金をということでお聞かせを願いました。平成33年には357億円になるということもお聞かせを願いました。そうすると、これが平成42年ぐらいになると、一番借金のピークですよ、支払いの。その平成42年のピークの金額というのは、幾らぐらいになるんですか。それも持ってみえないですかね。

◎上田修一会長

上下水道総務課長。

●成川上下水道総務課長

今、委員おっしゃっていただきました起債の残高の現在317億円、それから、平成33年度で357億円、これは汚水事業と雨水事業も含めてのものでございますが、現時点でその元利償還、これ平成28年度決算では約17億8,000万円でありますので、その平成42年度のピークに向けてこれがまだふえていくというふうな状況でございます。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

いや、そのあたりはまたお示しをいただきたいとは思いますが、そういう借金になるわけです。多分、これを、放映を聞いておいたら、やはり下水道はやらなきゃならん事業でありますけれども、一方でどんどん人口も減り、少子化になり、高齢化になって、負担をしていただくのは、そのときの現役の世帯が負担をしていくということになりますから、このまま進んでいっていいのかなということ若干私も危惧するわけでありまして。

大変下水道の事業の中で、見直しということで、エリアを、しぼみをしていただいていますよね。それは国のほうもそういう気づきの中でやってきているとは思いますが、今後の対応として、この下水道のほうも、やはりビジョンをとということになっています。このビジョンを策定するについて、そのあたりが相当、ことしの平成29年の1月16日には策定が大体完了したような状況なんだろうと思います。それには、正直、経営の戦略というものを入れながら策定はされておると思うし、当然、人口であるとか、市民の方に負担がどれぐらいかかってくるんだろうというようなことの予想値も出ておると思うんです。中身は、私もまだまだ確認ができておりませんが、非常に大変な数字だと思うんです。そのあたりのことについて、将来の下水道についてのビジョンについて、この経営戦略としてどのように考えておられるのか、当局のお答えをいただきたいと思っております。

◎上田修一会長

下水道建設課長。

●松田下水道建設課長

委員仰せのとおり、今後、伊勢市は人口減少がどんどん進むという大きな課題があるとは認識しております。その中で、今、下水道整備計画区域というのが定められておりますけれども、やはりそれを今後全てするのかというようなことも含めて、来年、次の下水道計画を立てるんですけれども、その中でまた精査もしていきたいと考えております。

以上でございます。

◎上田修一会長

宿委員。

○宿 典泰委員

ぜひ部長からもお答えをいただきたいんですが、実際には一般会計から繰り出しと、これを毎回やっておるわけですよね。その数字等々も含めてすると、それはもうふえていく一方だと思えます。水道のように、今もう完備されて、それをいかに有収率を上げていくとかいう話ではないと思うので、そのあたりが負担と、売り上げと言われる市民からいただくお金との違いというのがどんどん離れてくると思いますので、そのあたりの戦略としてどういうふうにご考えられているのか、お答えを願いたいと思っております。

◎上田修一会長
上下水道部長。

●中村上下水道部長

下水道事業の経営について大変御心配をいただいております。先ほど御指摘もございましたように、下水道全体の計画につきましては、平成20年度に見直しをいたしまして、当時14%全体の枠組みを縮小してまいりました。それから、事業量につきましても、そのときに見直しをかけております。合併直後の事業量から、現在随分と縮小もしてまいりました。それも将来的な財政の状況、それから繰り入れをもらっておる一般会計との調整も含めまして、調整をしてまいりました。引き続き、50%を超えたところということで、事業自体は、市民の皆様のお声もありますので進めていくことになろうかと思っておりますけれども、現在、国のほうでも下水道につきましては補助の制度、それから、起債の償還に関しましても交付金の対応とか、さまざまな制度もございます。できるだけそういった財源確保のアンテナも張りまして、来年度、第5期の計画をつくる予定をしておりますけれども、その中でも十分考えながら進めていきたいと思っておりますので、御理解いただきますようお願い申し上げます。

◎上田修一会長
よろしいですか。
他に御発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上田修一会長
他に御発言もないようですので、議案第80号の審査を終わります。
暫時休憩します。

休憩 午前11時02分

再開 午前11時02分

◎上田修一会長
休憩を解き、会議を進めます。
次に、「議案第81号 平成28年度伊勢地域農業共済事務組合会計決算認定について」審査に入ります。
この議案の審査についても、一括で御審査願います。
御発言はありますか。

☆議案第81号 平成28年度伊勢地域農業共済事務組合会計決算認定について 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、議案第81号の審査を終わります。

次に、企業会計中、当分科会関係分の自由討議を行いたいと思いますが、御発言はありませんか。

【企業会計の自由討議】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、自由討議を終わります。

次に、平成28年度決算全体中、当分科会関係分の自由討議を行いたいと思いますが、御発言はありませんか。

【平成28年度決算全体の自由討議】 発言なし

◎上田修一会長

御発言もないようですので、自由討議を終わります。

暫時休憩します。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時04分

◎上田修一会長

休憩を解き、会議を再開いたします。

以上で、本分科会に振り分けられました案件の審査は終わりました。

委員の皆様におかれましては、円滑な審査に御協力いただき、ありがとうございました。お諮りいたします。

会長報告文の作成については、正副会長に御一任願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎上田修一会長

御異議なしと認めます。そのように決定いたしました。

それでは、これをもって決算特別委員会産業建設分科会を閉会いたします。御苦勞さんでした。

閉会 午前11時04分

上記署名する。

平成29年 9 月 15 日

会 長

委 員

委 員